

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

研究科・専攻	大学院 電気通信学研究科 システム工学専攻 博士前期課程		
氏 名	大河原 友信	学籍番号	0835006
論 文 題 目	サステイナブル製品×企業戦略のフレームと定式化問題		
<p>要 旨</p> <p>現代において、企業は常に制約とリスクを伴う環境下であり、利益を得て成長していくためには種々の問題解決策を獲得していかなければならない。また、企業の長期的な安定成長には、各ライフサイクル・ステージを意識した長期の戦略が必要となる。</p> <p>企業利益を最大化する全体最適化問題においてはペア戦略マップ法が考えられている。しかしペア戦略マップ法では、利益(経済性)及びリードタイム(信頼性)については、単一製品の場合で考えられており、製品展開時のタイムフェーズではなかった。</p> <p>本研究では、複数製品下において製品×企業問題化として、製品と企業が持つ各要素と関係性からなる戦略を考えて、サステイナブル企業戦略とそのフレーム表現法を示している。また、そのフレーム表現法を用いる事例として、清涼飲料業界の一家であるカルピス社の例を考察する。</p> <p>カルピス社では、創業以来のコンク製品がひとつの主力製品となっていた。コンク製品が成熟期を過ぎた段階と考えられる頃に、それまで蓄積していたブランド、技術力を基にストレート製品を創出し成功を収めた。ストレート製品は、新製品の拡大など現在も成熟期にある。そしてさらなる発展を目指し、特定健康保険用飲料製品の開発に取り組み、より多角化した新製品創造サイクルが進展している。</p> <p>カルピス社は、これらの製品ライフサイクル・ステージの積み重ねによる多角化でサステイナビリティを向上してきた。過去のデータを振り返ると現在はサステイナビリティの転回期にあると考えられ、この事例をフレーム表現法にあてはめることで、利益のサステイナビリティとその存在可能性を、定量的に表現することができるかなどについて検討する。</p> <p>検討した結果、製品×企業開発視点より統合戦略のフレーム表現法として定式化例を示すことができた。また、各要素が利益(サステイナビリティ)に及ぼす影響、および利益のサステイナビリティとその存在可能性を定量的に表現することができた。</p>			